



## はじめに

東御市文化協会会長

貢 甚一郎

平成14年に30周年の記念行事を行ったところですが、早くも10年が経過し、今年には40周年を迎える運びとなりました。誠に喜びにたえません。「東御市文化協会」は、昭和48年（1973年）に「東部町文化協会」として発足し、創設に関わって頂いた関係の皆様や永年に亘る多くの指導者、そして実際に活動している会員の皆様方の“継続した活動”によって今日に至っておりますことについて、皆様と喜びを共有したいと考えております。

この度は、前回実施しました30周年後の10年間について、“活動の集大成”であります「40周年の“あゆみ”」を発刊することができました。会員一同、また歴史を支えてこられた先輩諸氏へ感謝し、過去の歴史から学ぶと共に、40周年記念事業は過去の総括であると同時に、新たな未来への出発点であると位置付け歩んでまいります。

10月28日には、多くのご来賓をお招きして、記念式典・祝賀会及び記念講演会を挙行之、会員一同はもとより関係の皆様と共にこの節目の記念を祝いたいと考えております。

当協会の文化活動（生涯学習）も40年たった今、数多くの課題（高齢化、後継者、多様化、個別化等々）が有りますが、東御市の恵まれた環境（ハード及びソフト両面）の中で、次代を展望しつつ真摯に対応してまいりたいと考えております。

今後共、関係各位の皆様の一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、記念誌発刊の挨拶とさせていただきます。

# 目 次

|            |                 |   |
|------------|-----------------|---|
| はじめに ..... | 東御市文化協会会長 貢 甚一郎 | 1 |
| 目次 .....   |                 | 2 |

## 【記念のおことば】

|                          |                    |   |
|--------------------------|--------------------|---|
| 文化協会発足 40 周年を祝して .....   | 東御市長 花岡 利夫         | 4 |
| 文化協会発足 40 周年を祝して .....   | 東御市議会議長 柳澤 旨賢      | 5 |
| 創立 40 周年を祝して .....       | 東御市教育長 牛山 廣司       | 5 |
| 文化協会発足 40 周年の重みを胸に ..... | 東御市公民館長 関 文彦       | 6 |
| 文化協会発足 40 周年を祝して .....   | (特)東御市体育協会会長 鶴田 武夫 | 6 |

## 【第 1 部】

### 40 年の歩み

|                                     |                |    |
|-------------------------------------|----------------|----|
| 30 周年記念事業の覚え書き .....                | 元副会長 小林 俊子     | 7  |
| 文化協会 40 周年によせて 10 年の歩み (その 1) ..... | 元会長 福島 慎雄      | 8  |
| 10 年の歩み (その 2) .....                | 会長 貢 甚一郎       | 9  |
| 地域に根差し更なる歩みを .....                  | 前副会長 栗原 陽子     | 10 |
| 旧北御牧村における文化活動 .....                 | 元教育次長 青木 正良    | 10 |
| 文化協会「部会の見直し」について .....              | 前副会長 小林 泉      | 11 |
| 文化協会ホームページの開設 .....                 | 副会長 青木 嘉子      | 12 |
| 祭典に歌あり .....                        | 前合唱部会長 庄村 茂    | 12 |
| 東御美術会発足 60 周年記念事業の取り組み .....        | 東御美術会長 高藤 俊幸   | 13 |
| 東御市にかかわりのある先達の書展 .....              | 書道部会長 山岸 一郎    | 13 |
| いけ花の伝統を守りたい .....                   | 元副会長 小林 清枝     | 14 |
| 次世代への絆を結び .....                     | ダンス部会長 石和 敬子   | 14 |
| カラオケ部会について .....                    | カラオケ指導者 都 あんり  | 15 |
| 文化会館の民間委託 .....                     | 文芸創作部会長 奥村 直   | 15 |
| 文化会館 20 周年記念について .....              | 副会長 関 誠        | 16 |
| 中央公民館の耐震改修工事と利用面からの展望 .....         | 東御市公民館長 関 文彦   | 16 |
| 機関紙せせらぎの役割と展望 .....                 | 広報委員会委員長 赤堀 峰晴 | 17 |
| トピックス (「せせらぎ」より) .....              |                | 18 |
| 座談会 .....                           |                | 19 |

## 【第2部】

### 各部会の歩み

|        |    |
|--------|----|
| 絵画部会   | 23 |
| 写真部会   | 25 |
| 書道部会   | 26 |
| 彫刻部会   | 27 |
| 民謡部会   | 28 |
| 料理部会   | 28 |
| 舞踊部会   | 29 |
| 詩吟部会   | 30 |
| 合唱部会   | 31 |
| 華道部会   | 32 |
| 茶道部会   | 33 |
| 手芸部会   | 34 |
| 工芸部会   | 35 |
| 園芸部会   | 37 |
| 短歌部会   | 38 |
| 俳句部会   | 39 |
| 陶芸部会   | 40 |
| 音楽部会   | 41 |
| ダンス部会  | 42 |
| 棋道部会   | 43 |
| 文芸創作部会 | 44 |
| 邦楽部会   | 45 |
| 川柳部会   | 46 |
| カラオケ部会 | 47 |
| 教養部会   | 48 |

## 【第3部】

### 文化協会の歩み

|                      |    |
|----------------------|----|
| 三（四）役・部会長歴代名簿        | 49 |
| 文化協会事業報告             | 51 |
| 役員研修会実施一覧            | 57 |
| 総合文化フェスティバルの変遷       | 58 |
| 東御市短詩型文学祭            | 59 |
| 東御市文化協会発足40周年記念事業の概要 | 60 |
| 東御市文化協会規約            | 61 |
| 編集後記                 | 64 |

## 記念のおことば



### 文化協会発足 40 周年を祝して

東御市長 花岡 利夫

東御市文化協会創立 40 周年を、心よりお慶び申し上げます。

「芸術や伝統に親しみ、文化の薫るまちをつくります。」これは、市民憲章に宣われた目指すべき東御市の未来像であります。

知人の大学教授が「東御市の人たちはもっと『文化芸術』を体育や知識と同じくらいに価値あるものと認めて欲しい」とおっしゃいました。知識に高い価値を認めることはいけないことではないが、人生を楽しみ、かつ知識や技術を生かすことを学んで欲しいと感じられたようです。

3.11 東日本大震災以降、人の価値観は大きく変わり、大切にすべきものを共有する文化が生まれようとしています。多くの市民が、もっと被災地の復興に寄り添いたいと願っております。地域のために自分に出来ることを考え、そして行動しようとしています。そのように市民の中に利他的に生きることを評価する文化が根付きつつあると感じています。

東御市は、平成 24 年 6 月 6 日に国（国土交通省、文部科学省、農林水産省）から、歴史的風致維持向上計画が認定されました。市内には固有の歴史的風致が形成されています。それは、海野地域の歴史的風致や大衆文化の歴史的風致（祢津東町・西宮地域）、また用水管理と田園風景に見る北御牧地域の歴史的風致であります。この計画で東御市には、親が子に、子が孫に、孫がその子に生活の在り様、人との付き合いや風習、人生を楽しむ方法を教え、そして学び、地域を守り育てる文化が海野宿や祢津、八重原地域を代表として、江戸時代から生活文化として確実に根付いていると高い評価をいただきました。

このような歴史ある文化の地において、東御市文化協会が創立 40 周年を迎えられたことは大変意義深いものであります。

結びに、創立 40 周年を迎えられた東御市文化協会の益々のご隆盛をお祈り申し上げますとともに、会員の皆様の活動を通して、さらに市民が、さらに地域が、文化の薫り高さを喜び、そして誇りにできる地域になりますことを祈念してお祝いの言葉に代えさせていただきます。



## 文化協会発足 40 周年を祝して

東御市議会議員 柳 澤 旨 賢

東御市文化協会発足 40 周年を心からお祝い申し上げます。

東御市は雄大な山並み、千曲の清流がおりなす、豊かな風土と長い歴史に育まれた美しい市です。

市民憲章にもありますように、芸術や伝統に親しみ文化の薫るまちをつくりましますとあります。これは市民一人ひとりが、芸術や伝統そしてスポーツに生涯を通じて親しみ学ぶことで、文化的なまちづくりへの願い誓いをこめています。

文化はその時代に大きく左右されてきました。近年の市の文化祭を拝見しましても、年齢を感じさせない若々しい作品が目につきます。創作活動は心身を若返らせるものだと感じます。

美しい物を見て聞いて心で感じ、その感動を表現する、なんと素晴らしい事でしょうか。

文化とは永遠に続くものであります。今後も文化活動を通して、文化の薫るまちになるよう念願し、会員の皆様のご健勝と東御市文化協会が益々発展されますことを祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



## 創立 40 周年を祝して

東御市教育長 牛 山 廣 司

東御市文化協会創立 40 周年を心からお祝い申し上げます。

これまでの歩みを振り返り、その道のりに多くの実りがあったことを感慨深く思われる方が多かろうと思います。

多岐にわたる活動、その数 25 を超える部会が組織され、趣味を生かす活動から、その道を極める格調高い活動を展開されてきました。これらの活動は、一挙に出来上がったものでなく、会費 50 円から始まり、数々の変遷を経て積み重ねられ「年々好年、日々好日」、40 年間の中で作り上げてきた宝物であります。多くの皆さんの人生を潤いがある豊かなものにし、人生で最も充実した生きがいとして感じたに違いありません。

東御市憲章にございます「芸術や伝統に親しみ、文化の薫るまちづくり」に、大いに貢献されたと思います。どの部会においても発表会や展示会等を開催し、市民の皆様にご成果を伝えることにより、より多くの人の目を楽しませてきたことも大切なこととして、誇ってよいのではないのでしょうか。

今後さらに期待したいことは、より多くの皆様が活動に参加され、生き生きとした人生を送ってほしいということ、加えて、若者が活動に参加されることを願います。さらに、素晴らしい活動に、つながる、広がる原動力となることと思います。

活動の拠点でもあります、中央公民館が新たに生まれ変わろうとしています。東御市文化協会のさらなるご発展と、会員のみなさまのご健勝をお祈り申し上げて、創立 40 周年のお祝いの言葉といたします。



## 文化協会発足 40 周年の重みを胸に

東御市公民館長 関 文彦

東御市文化協会が、発足 40 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。因みに 40 年前を回想しますと、懐かしい事が思い出されます。まず、年齢を見ますと、現在 90 歳の方は 50 歳、80 歳の方は 40 歳、70 歳の方は……と。世の中の中核として公私に渡り活躍されていたことでしょうか。当時、創立したばかりの文化協会に入会された方は、今、何人お元気で居られるでしょうか。40 年の歳月を改めて尊く感じます。

さて、40 年前の昭和 48 年（1973 年）の世相を辿ってみますと、経済面ではオイルショックがありました。芸能では、フォークソング、演歌等が新しいブームを呼び生活を活気付けました。文学では、遠藤周作氏の「ぐうたらシリーズ」が人気を呼びました。

しかし、何よりも記憶に残っている事は、江崎玲於奈博士のノーベル物理学賞です。江崎博士は、自らの研究や教育をとおして、いくつもの名言を残しています。まず「日本の学問は、ものを習う習得型で、何か新しい事に挑戦する探求型が不足している。と言うよりも、探究心の教育を受けていないと言ってよい。」と。そして、「幅広く、多角的な視点を持つと言うことが創造性の原動力になる。」とも。更に、「学問を知っている人は、学問を愛する人には及ばない。学問を愛する人は、学問を楽しむ人には及ばない。」と言っています。今年、87 歳を数える江崎博士も 40 年前は 47 歳でした。

東御市文化協会は、こうした歴史の中に堂々と継続しています。諸先輩方が築き、実践し、継続してきた文化協会が、50 周年に向け、探究心を持ち、創造性豊かに、40 年の重みを胸に、各講座の学習を楽しみ、更に向上されることをご祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。



## 文化協会発足 40 周年を祝して

(特)東御市体育協会会長 鶴田 武夫

東御市文化協会が、記念すべき発足 40 周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

昭和 48 年発足以来、会員皆様による、情熱と地道な活動が続けられ、東御市の芸術・文化活動の中心として東御市の文化復興に邁進されておりますことに対し、深甚の敬意を表します。

25 部会、193 グループ、1,700 余名の会員を擁する文化協会が「ふれあい、たすけあい、学びあい、共に生きる」という市生涯学習まちづくりの理念に添い、会員が常に向上心に燃え、意欲的に活動を続けてこられた成果は誠に多大なものであります。

ハードの時代からソフト（心豊かさを求める）の時代といわれてひさしい訳ですが、昨今のニュースでは心の時代と言われるには程遠い報道が多く、今こそ人々の心の豊かさが一層求められている時代であります。そうした観点から文化協会の果たす役割は非常に大きく、今後のご活躍をご期待申し上げます。

さて、東御市体育協会と文化協会はほぼ同時期に発足し、両協会は正式な調印はしていないものの姉妹協会として認識し、健康で教養豊かな地域文化の創造をめざし切磋琢磨してそれぞれの活動を展開してまいりました。

これからも、お互いに連携協調し合い「健康で心豊かな、文化の香るまちづくり」を目標に頑張りましょう。

創立 40 周年を節目に、東御市文化協会の更なるご発展と、会員皆様のご健勝をお祈り申し上げ、お祝いのことばとします。

# 第1部 40年の歩み(主に最近の10年)

## 30周年記念事業の覚え書き

元副会長 小林 俊子

文化協会と私との係わりは、昭和63年に「レザークラフトからくさ会」として手芸部会に加入したのが最初でした。「せせらぎ」6号と10号の編集委員をつとめ、平成7年から10年間、副会長としてお世話になりました。平成14年の「東部町文化協会創立30周年記念事業」に携わり、貴重な体験をさせていただきました。

30周年記念事業は、平成14年9月7日に、先ずは町民大学と共催で、講演会が文化会館で開催され、講師海老名香葉子さんの「泣いて笑ってがんばって」にホールいっぱいの皆さんが感動しました。続いて中央公民館で記念式典が行われ、「文化協会30年の歩み」の概要説明があり、福島慎雄会長から20名の方に功労者表彰状が授与されました。その後で祝賀会がなごやかに盛大に催されました。

同時に、「30周年記念誌—あゆみ」が約一年がかりで82頁におよぶ力作として発刊されて、全会員に配布されました。

あれから10年の歳月が流れ、大きな事業だったと改めて思い、皆さんの協力と努力のあとを少しふり返ってみたいと思います。

平成13年8月、記念事業推進のために、常任理事・三役に、①あゆみ編集委員会、②記念式典・講演会、③表彰委員会を分担して頂きスタートしました。(私は主にあゆみ)

先ずは昭和48年11月14日に発足した文化協会に関する30年間の記録や資料を集めて参考にしたのですが、かなり苦勞な仕事でした。そのいくつかを列挙します。

- 「文化協会だより」(昭和59年創刊で第5号まで)。「せせらぎ」(第6号から第20号まで)第6号は15周年特集、第9号は20周年特集、第16号は25周年特集。
- 「会員名簿」昭和58年発行は発足10周年記念をかねた挨拶文や“文化を語る”座談会の記事も掲載。その後平成2、6、8、12年の発行のもの。

○「文化協会総会議案書」昭和60年からのものしかなく(昭和61年は欠けている)、48年の発足から約10年間の活動のようすは空白状態に近いものでした。

○「広報とうぶまち」第141号(昭和48年12月発行)に“あなたも参加を、会費50円で文化協会発足”、第251号(昭和58年)に“座談会—協会発足10周年記念、東部町の文化を語る”が掲載。

○前会長関義豊さんが保管していた「金銭出納帳—昭和48年12月25日から平成3年3月28日まで」と記録されたノート。(歴代役員さんに資料提供をお願いしたのですが、かなわず、これは大切な資料でした。)

三つの委員会はいずれも一年前から綿密な計画を立てキメ細かな資料を作り、記念事業を成功させようと熱心に協力しました。

事業にはお金がかかりますので、平成14年4月16日の総会において、30周年記念事業特別会費一人500円が認められ、約1,800人分が経費の一部にあてられました。海老名さんの講演は町との共催でした。祝賀会費は一人2,500円の負担でした。

さらに、30年来役員のご挨拶は贈呈されていたようですが、いわゆる表彰は行われていませんでした。そこで4月16日の総会で、文化協会規約18条の〈感謝状の贈呈〉を一部改正して、〈表彰・感謝状〉第18条 本会の活動推進に貢献のあった個人または団体に、表彰状・感謝状を贈ることができる。受賞する個人または団体は本会役員並びに事務担当者により推薦し、常任理事会において決定する。とし、20人への賞が贈られた次第でした。

以上は私の手元に残しておいた資料を参考に書き記してきましたが、改めて様々な形で記録を残すことの重要さを感じました。

30周年記念事業ができたことは、先輩方が長い年月文化協会の活動を引き継いでくださった中にエポックを画したことになる、次のステップへのきっかけとして役立ったのではないかと考えています。

# 文化協会 40周年に寄せて 10年の歩み (その1) (平成15～18年)

元会長 福島 慎 雄

私は、文化協会の創立以前には「やまびこ合唱団」に参加して合唱を楽しんで居りましたが、昭和48年文化協会が発足すると同時に、謡曲部会に所属して活動して参りました。

それぞれの団体の一員として参加、活動できたことは、大変感慨深いものがあります。私が文化協会の会長に就任致しましたのは平成13年、関義豊会長のあとを受けて副会長から昇任したもので、前任の関会長は平成7年から6年間会長を務められましたが、その後を継いだ私も6年間会長の椅子に座らせて頂きました。

平成13年会長となりましたが、次の年の14年は文化協会の創立30周年に当たり、記念行事やら、記念誌の刊行やら、大変忙しい年でした。30周年記念誌「あゆみ」は、私の会長2年目の時に刊行しました。

平成15年、会長3年目のこの年は、各部署の皆さんの活発な発表会、演奏会、そして中央公民館全館を使っての文化フェスティバル、機関紙「せせらぎ」の発行、と例年どおりの活動が中心となりました。

平成16年、この年4月1日に東部町と北御牧村が合併して「東御市」となりました。文化関係

の行事で、新東御市の発足とともに第1回という呼称を冠したものに、短詩形文学祭、合唱祭、新春書き初め大会等があり、一方伝統を重んじて東部町時代からの数字を重ねて、第54回、第22回等の継続した形を取っている団体もあります。

平成17年、18年、各部署・グループの発表、文化フェスティバルの開催、「せせらぎ」発行と活発な活動が続きましたが、これらは市民の皆さんの文化活動に対する、深い理解と温かいご支援があったればこそ成し遂げることができたことだと思っております。

さらに文化活動の拠点として、平成3年に完成した文化会館（サンテラスホール）の存在があります。数々の発表会、展示会等が幅広く行われ、若い子どもさん方から高齢者の方々に至るまで、幅広く利用されていることは皆さんご存じのとおりです。

私たちは創設期の先人たちのご苦労と、今日の活動を支えていただいている方々のご尽力があることを忘れてはならないと思います。幾多の困難とご苦労があったことと推察されます。先人の方々にあらためて感謝申し上げたいと思います。そして次世代、次々世代の皆さんにはこれを繋いでいってほしいものです。

文化活動とは「草の根的活動」から出発し、「文化」として成長していくものと思います。文化の香り高い我が東御市の一層の発展を願ってやみません。(第4代会長)



とうみ混声合唱団 25周年記念演奏会  
(せせらぎ 24号より)



## 10年の歩み（その2）

（平成19年～現在まで）

会長 貢 甚一郎

平成19（2007）年4月19日に文化協会の定例総会が行われ、新体制がスタート。ところが翌5月2日に新会長の土屋征志郎氏が突然病死されるという非常事態が発生。急遽6月6日の臨時総会にて、後任会長として私（貢甚一郎）と、副会長兼務から独立の新設会計として高木友子氏が承認され、新たなスタートとなった。

この臨時総会の中で、会員から「部会（せせらぎ部会を始め）の見直し」についての提案があった。また、事務局（文化振興係）が年度内に交代となる（西澤係長から三溝係長へ）。

平成20（2008）年4月17日の「文化協会総会」では、特別講演として「日本一の巫女の村」と題して石川好一先生より講演を受ける。

「部会の見直し作業」の前に、現状を把握するため、全部会長を対象としたアンケート「活動に関する現況調査」を実施した。

「部会の見直し作業」は、先ず「せせらぎ部会」が複数ジャンルのグループ構成となっていて運営が大変ということで、大きく「手芸部会」・「工芸部会」に集約し、「料理部会」及び「園芸部会」「教養部会」の新設等を立案し、関係各部会との“調整”や“説明会”等を数回に亘り実施し、年度末の常任理事会にて決定となる。

見直し前30部会を26部会に編成替、平成21年4月1日からの実施に向け、移行作業も順調に経過。又、この常任理事会にて「文化協会公式ホームページ」の作成についても提案し、翌年度実施と決定。

平成21（2009）年度は4月1日より「新部会（見直し後の）」にてスタート。協会の事務局が文化会館指定管理者制導入に伴い、文化会館（文化振興係）から中央公民館内生涯学習係（横関係長）に移行となる。

6月1日には懸念であった「協会公式ホームページ」が完成しUPとなる。又、「せせらぎ編集委

員会」を「文化協会広報委員会」に名称変更し、「せせらぎ編集」に加え「ホームページ作成」も含め広報活動の充実・強化を図る。「広報委員会」の業務内容及び予算等全般について協議し、新広報委員会をスタート。尚、併せて取材活動等に使う「腕章」を作成。

新規加盟のグループ長を対象に「入会オリエンテーション」を実施開始。「役員手当て」を見直し本年度から変更実施した。

平成22（2010）年度は、「市の関係施設（湯楽里館・ゆうふる tanaka・明神館・御牧の湯・道の駅雷電くるみの里の計5箇所）への発表の場について調整を図る。

東御市総合福祉センター2F（高齢者センター「ほめ合いギャラリー」）の展示関係について、関係部会長等との打ち合わせ会を実施し、今後の活動運営について整理及び確認をし、円滑なる再スタートとなった。

「40周年記念事業関係（基本計画）」の検討準備に入った。

平成23（2011）年度は、「40周年記念事業実行委員会」を正式に立上げ、具体的な作業の開始となる。委員会は、①「あゆみ編集委員会」と②「記念講演会・式典祝賀会企画委員会」を構成し、実施のための企画や作業を開始。

「総合文化フェスティバル」は、11月5日～6日にかけて文化会館で実施となる。今回は展示関係とステージ関係の同時開催方式で実施。初の試みでも有り「文化会館開館20周年」を記念し、盛大に挙行できた。

また市施設へのボランティア活動として文化会館周辺の落ち葉清掃を実施。

平成24（2012）年度は、「東御市文化協会40周年記念事業（10月28日）」の実施予定。「総合文化フェスティバル」を「文化会館」で開催予定（11月3日～4日）。

昨年に引き続き、市施設へのボランティア活動として「文化会館」の落ち葉清掃も予定。

## 地域に根ざし更なる歩みを

前副会長 栗原陽子

私は平成17年から20年までの4年間、副会長として文化協会の運営に関わらせていただきました。その間、思いがけない体験もありましたが、中でも就任して最初の大きな仕事であった「火のアートフェスティバル」の副実行委員長は強烈な印象でした。

凜と聳える浅間、烏帽子の絶景を望み、周囲に広がる実りの田んぼを愛でながら八重原の大地に繰り広げられる火の祭り。その賑わいの中に身を置いたとき、改めて北御牧村と東部町との合併を実感いたしました。そして悠久の昔からこの地で培われた焼き物作りの文化を、これからは一緒に育てていくのだ、との思いと、新しい仲間たちとの新しい町づくりへの期待に、心が躍りました。

合併に先立ち、平成14年10月から「新市将来構想策定委員」の委嘱を受け、他の委員と共にど

んな市にしていきたいか、という夢を語り合う機会をいただきました。

お互いが育み慈しんできた大切なもの、それらを全部含めて新しい市に託す夢をひとことで表すのは大変なことでしたが、「さわやかな風と出会いの元気発信都市」の基本理念を策定するに至りました。文化協会もこの理念を大切にしていきました。文化協会もこの理念を大切にしていきました。新しい組織に生まれ変わることを願っていましたが、特に困難な問題は生じず、スムーズに合併への移行ができたとお聞きしています。

文化協会40周年にあたり、活動の場を得て生き生きと活動されていた発足当時をふり返り、更に今後は時代に即した新しい分野へも挑戦していただきたいと思います。そして、若者がこの地域にしっかりと根を下ろし、夢をもって生活していくために、文化協会がその一翼を担っていただけたなら、大変有難く嬉しく思います。

## 旧北御牧村における文化活動

元教育次長 青木正良

旧北御牧村には文化協会といった組織がなく、舞踊、民謡、太鼓、コーラス、歌バンド、絵画、墨絵、書道、陶芸、刻字、生け花、パッチワークキルト等色々な文化活動が行なわれてきました。文化活動には良き指導者がいて、そこに多くの会員が集まり活動が行なわれております。旧北御牧村の文化活動で私が知るところでは、村内指導者としては舞踊は小山先生、民謡は依田先生、コーラスは畑田先生、墨絵は村松先生、絵画は船山先生、刻字は塩川先生、大塚先生、村外からは陶芸は亀井先生、太鼓は御諏訪太鼓、パッチワークキルトは小島先生に指導をいただきました。

それら活動の成果の発表の場としては、村、公民館等主催で行なわれる行事等で依頼されての発表で、総合作品展では、絵画、墨絵、書道、陶芸、刻字、生け花、パッチワークキルト、アケボノゾ

ウの化石等多数の作品の出品があり、来場者に多くの感動と癒しを与えてくれたと思います。

村内70歳以上のお年寄をお招きしての敬老会演芸会の中で舞踊では農協婦人部舞踊クラブ、民謡では山崎民謡クラブ、コーラスではコールアカシアの皆さん等による披露がありました。みまき大橋竣工渡り初式では信州御牧太鼓保存会の皆さんによる太鼓の演奏もしていただきました。

みまきドカンコ、火のアートフェスティバルでは、昭平バンドによる歌、ギター等の演奏、信州御牧太鼓の皆さんの太鼓演奏、山崎民謡クラブの皆さんの民謡、コールアカシアの皆さんのコーラス、中学校吹奏楽部の皆さん等によりそれぞれの行事等を盛り上げていただきました。これからも文化の継承発展をしていただきたいと思います。

貴協会員の皆様方の今後さらなる文化活動発展をお祈り申し上げます。

# 文化協会「部会の見直し」について

前副会長 小林 泉

## 一、文化協会「部会の見直し」について

私が4年前に、文化協会の副会長をしておりましたその年の総会で、「部会の見直し」についての要望がございました。

そこで三役と常任理事会等で議論をし、賛成・反対等の意見がたくさんあり、なかなかまとまりませんでした。

当時「せせらぎ部会」という部会があり、どこにも対象にならない部会が集まって構成されておりました。

## 二、見直しの必要性、経過

各グループの長さん、おひとりおひとりに、ご意見を伺う事にして、まず「せせらぎ部会」を解散してもらうことにしました。

そこで、工芸部を設立し、集約していただきました。手芸部と工芸部に大きく分けてまとまってきました。

「見直しの基本的な考え方」

- 1 せせらぎ部会を解散する。
- 2 該当の部会へ編入させる。
- 3 新しい部会名で実施する。
- 4 30部会を26部会にまとめる。

以上のように部会見直し移行作業を実施致しました。

平成20年11月に案を示しました。

12月までに対象部会の助成金支払。

〃 部会の会計を精算する。

1月末までに新部会の発足会議開催。

2月末までに役員の引継ぎ、部会の開催。

3月までに新体制にてスタートする。



せせらぎ（押し花）30号より

## “部会の見直し”後の「新・部会組織」（平成21年）

| 部会No | 新部会名 | グループ数 | グループ   |
|------|------|-------|--|
| 1    | 絵画   | 5     |  |
| 2    | 写真   | 2     |  |
| 3    | 書道   | 16    |  |
| 4    | 彫刻   | 3     |  |
| 5    | 民謡   | 15    |  |
| 6    | 舞踊   | 27    |  |
| 7    | 詩吟   | 6     |  |
| 8    | 謡曲   | 4     |  |
| 9    | 合唱   | 11    |  |
| 10   | 華道   | 7     |  |
| 11   | 茶道   | 7     |  |
| 12   | 手芸   | 12    | さくら会 もくれん<br>むつみ会 ひつじ会<br>もめんの会 さわらび<br>糸ぐるま 布あそびの会<br>どんぐり なでこの会<br>エコ・ファミリークラブ<br>東御ひなの会   |
| 13   | 工芸   | 15    | ハーティフルフラワー<br>押し花クラブ<br>レザークラフトからくさ会<br>わかばB<br>マーガレット<br>フラワーサークル心愛<br>ローザ 七宝会<br>ツール&パッチ<br>ステンドグラスクラブ<br>折り紙の会 八装会<br>籐青会 籐八会<br>柳寿 |
| 14   | 料理   | 2     |  |
| 15   | 園芸   | 2     |  |
| 16   | 短歌   | 3     |  |
| 17   | 俳句   | 4     |  |
| 18   | 川柳   | 1     |  |
| 19   | 文芸創作 | 7     |  |
| 20   | 陶芸   | 3     |  |
| 21   | 音楽   | 6     |  |
| 22   | ダンス  | 14    |  |
| 23   | 棋道   | 2     |  |
| 24   | 邦楽   | 16    |  |
| 25   | カラオケ | 18    |  |
| 26   | 教養   | 2     |  |

## 文化協会ホームページの開設

副会長 青木 嘉子

情報革命の昨今、あらゆる情報がパソコンに限らず IPAD やスマートフォンですぐに見れる時代となりました。当協会においてもこの時代にふさわしく対応できればと長野県下の文化協会のトップを切って、平成 21 年 6 月にホームページを開設致しました。

「20年に会長の提案があつてから、約1年の準備期間を経ての事です。」

目的としては

- ①協会の活動（各グループ、各部会、全体による活動の事前、事後）に関する開示。
- ②新規会員の拡充策。
- ③協会に関する各種情報の開示。
- ④情報伝達のスピード化などです。

現在管理は文化会館に依頼し、情報提供は当協会が行い、各種行事への取材はせせらぎ編集の広報委員が担当しております。

開設の年、副会長となった私は会長の依頼で広報委員長を兼務しました。今まで取材経験など全くなく、不安の中スタートしましたが、やはり無経験者ばかりの広報委員が精力的に取材活動を進めて、それぞれの個性を生かして取材報告をしてくれました。

以来4年目を迎えて、委員のメンバーは変わる中で、広報委員の取材には磨きがかかってきます。広報委員は紫の腕章を付けて取材しています。その記事を含めてぜひ一度ご覧いただきたく思います。アクセスも順調で、遠くは東京の島からお訪ねいただいたこともあります。

以下はエクセル入門の講師静宣夫さんのせせらぎ 28 号の記事ですが「このホームページを見るまで、市内にこれだけの数の活動グループがあるとは知りませんでした。より広く市民の方々に知っていただくためにも、携帯サイトでの閲覧も出来ると若い世代にも閲覧の機会が広がると感じます。」スマートフォンがこの願いを果たしてくれました。今後若い世代の皆様のご活用とご入会を特に期待しています。

## 祭典に歌あり

前合唱部会長 庄 村 茂

合唱部会は毎年開催の「合唱祭」のほかに、市および文化会館のイベント事業に積極的に参画し活発な活動をしています。

平成 16 年 7 月 17 日は「東御市発足記念式典」が開催され、この席上市民コンサートと題し山丸洋子氏指揮により「翼をください」「ふるさと」「大地讃頌」を 100 余名にて合唱し式典に花を添えました。

平成 18 年市文化会館開館 15 周年を記念し「カンタータ土の歌」を、指揮者に佐藤 眞氏を再びお迎えし群馬交響楽団と共に、公募市民および部会員 130 名と市内の子ども達 105 名により 11 月 25 日に開催。満員のお客様と共に再び感動の演奏会をすることができました。

平成 20 年は「大田区休養村とうぶ」の開設 10 周年の記念イベントと併せ、11 月 24 日の記念式典の後、48 名の大田区より参加の合唱団員と共

に初の交流合唱祭を開催しました。

平成 23 年市文化会館の開館 20 周年記念として、第 8 回東御市合唱祭のフィナーレに「ふるさとの四季」を山丸洋子氏指揮、島田みのり氏伴奏により公募市民 100 余名が声高らかに歌い、さらに平成 24 年 6 月 3 日には公募市民 40 名、5 名のプロのソリスト、20 名のオーケストラにより高木房雄氏指揮・演出による喜歌劇「メリー・ウイドウ」を上演。会場に満員の観客を迎え開館 20 周年記念事業にふさわしい演奏会となりました。

今後も歌う喜びを市民の皆さんと感じ、合唱人口の拡大を図りたいと思います。



## 東御美術会 発足 60 周年記念事業の取り組み

東御美術会長 高 藤 俊 幸

東御美術会が誕生し、62年になりました。平成12年に50周年記念事業が行われ、記念誌の発刊、記念展の開催を大規模に実施しました。あれから10年経過した平成22年度に、記念すべき60周年を迎え、記念事業内容は50周年時と変わりありませんが、単なる10年の節目を飾るのみでなく、10年間の時代背景や、人の動き、年度毎のあゆみなどを的確に記録する記念誌A4版、36ページカラー画集を発刊し、美術会員及び、主な行政機関、市内小中学校に配布いたしました。記念展は、10年間励んだ、「作者が感動し表現した」作品をいかに多くの方々に鑑賞いただけるかが課題でした。出品者34名、出品作品46点、会期8日間で784名の皆様に鑑賞していただきました。記念展の授賞式、祝賀会も盛大に行われました。優秀作品選考審査員には、東信美術会長の宮

下俣實様、副会長の守口爽和様、日本水彩画会上田支部長（東御美術会顧問）の荻原芳雄様に依頼し、選考をしていただき60周年記念賞、東御市長賞など6名が表彰されました。記念展の傾向は、大作が多くなったこと、作者の感動を鑑賞者に伝えている作品が多くなりました。これは毎年全員でテーマを決めて1回テーマ展を開催してきた大きな成果だと思います。

今日、美術会の存続、発展あることは、巨匠丸山晚霞の出身地であり、その影響を強く持つ諸先輩の皆様により、美術会の創設から地域の芸術文化の推進に至るご尽力の賜物であると、敬服すると共に感謝を申し上げます。各地区の公民館でも絵画講座が開設されたことは本当に喜ばしいことだと思います。今後は、中級を目指す会員の指導者の確保を考慮しつつ地域の芸術文化の推進に寄与したい。最後に、記念誌発刊、記念展等の事業に対して、花岡市長始めそれぞれの関係機関の方々に、ご支援、ご協力を賜りましたこと、厚く感謝と御礼を申し上げます。

## 東御市にかかわりのある先達の書展

書道部会長 山 岸 一 郎

東御市が誕生した平成16年、東部町の書道部会で毎年続けてきた部会展が、ちょうど10回目を迎えました。そこで旧町村の書道愛好者が一緒になり、「第1回記念書道部会展」を開催することになりました。記念展のメインは「東御市にかかわりのある先達の書」を、同時に展示させて頂くことでした。先達の優れた作品に触れ、新風を期待したからです。

準備期間も短く不備もありましたが、関係の皆様、特に貴重な作品をお持ちの方々には並々ならぬご好意とご理解を賜り、予想を越える30点余りの作品を拝借することができました。会場となった中央公民館講堂の周囲には会員の作品を展示し、先達の作品はステージ周辺に展示しました。正面中央のステージ前には台を並べて、その上に羽毛山出身の西野入曲川の篆書の六曲屏風一双を展示しました。金屏風は保存もよく清々しく輝き

ました。曲川は明治28年の内国勸業博覧会に篆書「正気歌」を掲示して、日本3大家の評を得たそうです。佐久間象山の「力士雷電之碑」は牧家にある石碑の大きな拓本ですが、ステージの中央に飾りました。そして比田井天来をはじめ丸山晚霞、中村不折、上條信山、岡川桂城、中村清山、竹内風聲、金子朴水、依田行舟、虎井暁鐘、成沢臨舟、大井深翠、岩下桂峯等々の力作が居並び、将に壯観そのものでした。会期中の参観者も多く「見応えのある展覧会だった」と言って下さる人もいました。いずれこの地域にも昔から書を愛し、楽しみ、大切にしてきた人々がたくさんいたことを、皆さんに知って頂くことができたと思います。



## いけ花の伝統を守りたい

元副会長 小林 清 枝

父親が前から遠州流の師匠をしていたので活け花を見聞きしながら育ちました。

戦前戦後、近所のおじさん達が、山から採ってきた花材を持ち込み、様々な形に活けていましたが、父は遠州流の形は外さなかったように思います。

私は文化協会が発足した昭和50年頃から、本格的に取り組みました。自宅でも教えていたり公民館で生涯学習の手助けをして居りました。若い保母さんや会社勤めの方達がお稽古に来ました。又親がつきそって頼みに来ることもありました。

その頃より皆さんが習ったのは、どのような花でも花器でも見映えがするように活けて、どこにでも飾れる一般的な盛花です。最近はそうした活け花にも、人の足が少し向かなくなりました。他の流派でも事情は変わらないようです。若い人たちは生活にゆとりがなくなり、ゆとりが出てくると、他の趣味などに回ってしまう、そんな世相になってしまったからなのではないでしょうか。それでは活け花

の伝統が消えてしまいます。

東御市ではそんな傾向を感じて各流派の先生達が仲よくし、一生懸命生涯学習講座に参加したり、総合文化フェスティバル等の展示を行って来ました。これからも続けたいものです。

ただ古来の伝統を受け継ぐことは、大変難しくなりました。遠州流でも、生花を手掛ける人は少なくなりました。花材、花器、活け方などのきまりをマスターするには時間がかかるからです。しかし花道の長い付き合いの中で、何とか夢を実現したいと強く思うこの頃です。



H6.9 県展（上田）

## 次世代への絆を結び

～会員・グループ数の増加に関して、  
取り組み・成果と課題～

ダンス部会長 石 和 敬 子

文化協会のこの10年の歩みを振り返り、その間、グループ数・会員数ともに増加率が高く、部会としては今年度最多人数となったダンス部会の背景を考察しますと、近年のフラダンスの流行、義務教育でのダンス必修化も後押ししたキッズダンスブーム、ジャンルのグローバル化、等々によってダンス人口が飛躍的に増加したことがあります。そして文化協会としての視点に立って考えると、会員数増員の大きな理由のひとつとして、子どもたちの加入が挙げられます。

従来、文化協会の目的は文化の振興と会員相互の理解と交流であるとされており、構成員が子どもだけでは、会員相互の交流という点で目的達成

への懸念がありました。しかしながら未来に向かって羽ばたこうとする子どもたちに環境と機会を提供する、またそれを見守る保護者がグループに参加することにより家族ぐるみの相互理解と交流が生み出されるのであれば、それこそがこれからの地域づくり、文化創造の一端ともなり得る。そんな可能性を信じ、協会理事皆様のご理解のもと加入を推進してまいりました。ダンスの分野は環境整備、運営、発表会等に多くの負担がありますが、文化協会への加盟により練習の場所及び発表の機会が格段に広がったことは深く感謝するところであります。

今後の課題としては、部会としての協働を図り、ジャンル・世代を超えて会員一同、より一層のつながりを結んでいくことができればと願っております。そして文化協会のこれからの益々の発展と拡大を期待し、微力ながら努めてまいりたいと存じます。

## カラオケ部会について

カラオケ指導者 都 あんり

歌を愛する会員と歩んだ、カラオケ部会に想いを寄せて一。

カラオケ部会の歩みを振り返ってみますと、各教室合同で、毎年8月にサンテラスホールにて開催する発表会に尽きると思います。今年で17回を迎えます。17年間もの年月を顧みますと、会員1人1人の努力を想わずにはられません。カラオケ部会は、音楽部会からの出発で、カラオケを愛する会員が年々増え、カラオケ部会として発足しました。当初の発表会は、中央公民館で、60名程の開催だったと思います。その後会員が増え「いつかはサンテラス」という言葉が、実現した時は、本当に嬉しく感動し、小さなことでも続けていけば叶うことを知りました。毎回役員が集り何回も会議を開き用意をして、手作りの発表会で現在は、サンテラスホールのスタッフの皆さんのお力を借りて、当初の発表会からは、想像もできない程の華やかさ。毎年会えるお一人お一人の唄

う姿に「あーお元気でいられたんだ、良かった」と嬉しく思い、歌で結ばれた絆を感じます。高齢化社会を迎えて、好きな事があり仲間がいれば楽しく充実した人生を送ることが、他の部会の皆様も含めて出来るのではないのでしょうか。今後カラオケ部会を継続していく為にも、若い世代の入会が必要です。若い人の力とアイデアで、カラオケ部会が、益々大きく揺るぎない部会となるよう願います。この度の東日本大震災は、当り前に毎日の生活があることが、そうでないんだということ、気付かせてくれました。1日1日を大切に、生かされていることに感謝し自分達のできることを小さいことでも精一杯やっつけていこうと思います。現在会員185名となり文化協会においても、最も大きな大きな部会にさせて頂き、発表会の参加人数130名が、一日を要しての会となりました。

自然に恵まれた緑豊かな、東御市に実った歌の力と人と人の絆を願うと共に、文化協会様、カラオケ部会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

## 文化会館の民間委託

文芸創作部会長 奥村 直

たしか平成20年の3月頃でしたか、文化会館の職員の若林さんが「民間委託に移行していかないと一」と言われたことを覚えています。そのころ私は文化会館運営委員会の副会長。会長は今の文化協会会長貢甚一郎さんでした。運営委員会にはJSフォーラムの小原さんも居られたと記憶します。たしかその年の夏ごろだったのでしょうか、ステージの諸設備のメンテナンスをJSフォーラムに依頼することとなり、秋には民間委託の業者が公募され、いくつか(3社だったと思います)の応募会社の中からJSフォーラムが選ばれました。この間の経過について、運営委員会の在り方や、委託業者の選定など、何回も関係者の間で会議が開催されました。和田教育長、竹内生涯学習課長も出席され、文化協会の役員との間で話し合

いがもたれたのですが、当時文化振興係長だった成沢さんとかなり熱の入った論争もやりました。

平成21年4月から全面的に文化会館の民間委託が発足し、市役所の担当部門も文化振興係の業務を生涯学習係で兼務することとなり、中央公民館へと移りました。それまで文化会館内にあった文化協会事務局も中央公民館に移転しました。

現在文化会館では様々な公演のほかに、ロビーを利用して新進演奏家を紹介するロビーコンサートのような新しいスタイルの演奏会、また、敷地を利用して薔薇を咲かせたり、椅子テーブルを配置してオープンカフェを開いたり、とさまざまな企画が活発に行われています。



## 文化会館 20 周年記念について

副会長 関 誠

昨年文化会館が、平成 3 年 3 月 3 日ひな祭の日  
に開館以来 20 周年を迎えましたが、時の流れは  
不思議なもので、当時、旧東部町が人口 2 万 5 千  
ほどの町にこんな大きな立派なものが、果たして  
必要なのかと思ったのは私だけではなかったか  
と思います。それが、今日に至っては市民の憩の場  
であり、文化の発信の場所として、無くてはなら  
ない会館と位置づけられるようになり、文化協会  
としても、祝賀イベントとして、文化フェスティ  
バルを開催しました。文化会館で開催するのは、  
初めてで色々反省する点はありましたが、来客も  
予想より多く、良かったと思います。

そこで本年は文化協会の開設 40 周年にあた  
りますので、昨年の反省点をふまえて、より充実  
した記念フェスティバルにしたいと思います。が、  
最近会員の減少が少々気になります。特に日本固

有の伝統文化である、謡曲など、古典的なものが、  
若年層に敬遠される傾向にあるように思います。  
詩吟も同じで高齢化が進めば、自然消滅する事も  
あろうかと危惧するところです。他の部会にも同  
じ悩みを持っているところがあるかと思えます。

年齢は問わず、会員の増強をはかり、40 周年  
を機に、協会の発展につなげて行きたいと考えま  
す。「若い人は忙しくてそんな余裕は無いよ」と  
言うかも知れませんが、余裕が無いからこそ、ゆ  
とりの時間を持つのも人生の有りようかと思いま  
す。文化は人の心を豊かにします。ならい事は、  
楽しみながら学びながら喜びを見つける、それが  
技術の向上につながり、会員のみならず、外にも  
波及し、会員増強の要因になればと期待してやみ  
ません。



## 中央公民館の耐震改修工事と 利用面からの展望

東御市公民館長 関 文彦

中央公民館玄関入口に「定礎 昭和 55 年 3 月」  
と 32 年間風雨にさらされながら、礎石が、全て  
の来館者を見守っています。この間、何人の方が  
訪れたことでしょうか。

全ての物は年数と共に老朽化します。中央公民  
館も然りです。今回、舞台が丘構想の一環として、  
安全のために耐震工事を行います。また、より使  
い易くする為の改修工事も行います。このハード  
面での工事を機会にソフト面でも再考したいと思  
います。公民館活動は芸術、芸能、技術、技能等  
の向上をはかることが大きなウエイトを占めてい  
ます。

ここで公民館の原点に目を向けてみたいと思  
います。昭和 22 年制定の公民館の歌（自由の朝）  
があります。そこには「郷土を興すよろこびも」

「郷土をひらくゆかしさも」「郷土に生きるたのし  
さも」「公民館のつどいから」と歌われています。  
更に「とけあう心なごやかに」「希望を胸にまし  
い」「まどいになごむひととときに」とあります。  
この歌の様に公民館は、「つどい・まなぶ・むすぶ」  
を通して人づくり、地域づくりを進める場所だ  
と思います。

大人は過去をつくり、結果にしたり顔。子供は  
未来をつくり、希望に燃える。この両輪を繋げる  
のが現在であり、その大役の場が公民館ではない  
かと思えます。個人プレー（知識、技能、経験）  
を集団プレーに活かしてこそ、個人が輝き地域の  
活性化に生きるものと思えます。

そのために講座の一つ市民大学を充実させ、人  
材育成と人材活用に力を入れたいと思えます。多  
種多様に輝く地域の皆様の力をお借りして、日頃  
の公民館活動を更に充実させ、子ども達も交え、  
元気に楽しく活動出来るような公民館にしてい  
きたいと願っています。



# 機関紙せせらぎの役割と展望

広報委員会委員長 赤堀峰晴

東御市文化協会の広報誌は「せせらぎ」という名前で年1回発行されています。内容は文化協会総会と秋に行われる総合文化フェスティバルを中心に、役員名簿と1年間の協会所属部会の活動報告です。全戸配布なので、掲載された内容については協会活動として周知出来ますが、すべてではありません。

東御市文化協会はどのような団体で、どんな部会があり、参加するにはどうすればよいのか。今所属されている人はもちろん、新たに東御市の住民になり文化活動を始めたい人にも分かりやすいガイド紙として、今年の活動報告だけでなく、今後の活動案内を伝えていくこと。そしてリアルタイムに情報を発信するためには文化会館のホームページや中央公民館の生涯学習係との連携で、必要な情報が早くと確に得られるように「せせらぎ」の発展を希望します。

## せせらぎの表紙写真

第21号



第22号



第23号



第24号



第25号



第26号



第27号



第28号



第29号



## トピックス

(「せせらぎ」より)

### ☆東御市 丸山晚霞記念館オープン

丸山晚霞記念館が11月3日にオープンしました。晚霞記念館を建設するにあたり遺族の皆さんより貴重な作品を寄贈して頂き、今回はその作品を中心に「丸山晚霞展」を11月3日～12月24日まで開催する予定です。

丸山晚霞は、1867年(慶応3年)小県郡祢津村に、農家の二男として生まれました。

18才で上京して、祢津小学校や小諸義塾で図画教師として勤務しました。小諸義塾では島崎藤村と共に教鞭をとりました。

丸山晚霞は山岳風景を得意とする作家として知られ、アルプスや高山植物を多く描いています。

詳しくは、東御市生涯学習課文化振興係(0268-62-3700)までお問合わせください。

(「せせらぎ」第25号より)



(丸山晚霞記念館オープンの様子)

### ☆土屋征志郎さんを偲ぶ

文化協会副会長 栗原陽子

“土屋さんが倒れ、意識が戻らない”奥様からの連絡をそう理解するまでに、どれだけ時間がかかったことでしょうか。会長に就任され決意も新たに出発されたばかり。まさに晴天の霹靂でした。

土屋さんは平成11年監事に、13年からは副会長として六年間福島会長を支えて来られました。几帳面な反面、冗談で場を和ませしてくれる気配りの人でもありました。



(ありし日の土屋さん)

地域の合唱の草分けとして活動された土屋さんですが創設以来心血を注がれた「とうみ混声合唱団」が25周年を迎えた記念コンサート(17年7月)では心の底から楽しみ、歌い、踊る姿がありましたのに、残念でなりません。ステージの袖から土屋さんが登場しそうな錯覚を感じながら今後の発表会を聴かせていただくつもりです。

(「せせらぎ」第26号より)

### ☆本当の豊かさを求めて

東御市公民館長 今泉正毅

日頃、心豊かな生き方としての文化を育み、また、人と人とのつながりを深め、お互いが支え合って生きることができる我がまちづくりを目指す文化振興のために、積極的に学びを展開し、その成果を発表し、多くの感動や喜びの機会を与えてくださっている文化協会及び各部会の皆様に、改めて敬意を表し、感謝申し上げます。

「心豊かな生き方」については、学びの実践者から示唆されています。音楽演奏会や絵画・書・文学などのあらゆる分野での創作・発表活動の姿や、発表作品が語る作者の思いや願いにも、人に対する「やさしさ」が溢れており、参加市民との心豊かな相互交流も深められていると思います。

今の世の中の厳しい現実の一面として、「もの」優先の考え方の傾向もあることや、その背景としての競争や格差の指摘もありますが、地域文化の振興・向上を図るうえで大事に考えたいことは、家族は勿論、隣近所や地域が仲よく、人びとの心の「やさしさ」が伝わり、お互いに支え合って生きていける人間関係のつながりを深めていくことではないでしょうか。

東御市文化協会、そして各部会の皆様のいよいよのご尽力、ご活躍をご期待申し上げます。

(「せせらぎ」第27号より)



# 座 談 会

日 時 平成 24 年 7 月 17 日 (火)  
午前 9 時 30 分 ~ 11 時 30 分  
場 所 東御市中央公民館 第 3 学習室  
テーマ 「文化協会の現状と展望」

(出席者)

貢 甚一郎 (文化協会会長)  
栗原 陽子 (前副会長)  
小出 春吉 (北御牧関係者)  
庄村 茂 (グループ等代表)  
青木 嘉子 (副会長・記念誌担当)  
奥村 直 (記念誌編集委員長・司会)  
山岸 一郎 (原稿班責任者)  
塩野入靖夫 (資料班責任者)  
新保 俊子 (写真班責任者)  
曾根川歌織 (生涯学習係、事務局・記録)

**司会** お集まりいただきありがとうございます。40周年の記念誌の編集が進んでいます。その中で30周年以後40年までのことは多く語られていますが、41年から先を見渡した展望が必要です。これからの文化協会についてお話をいただきたいと思い、本日の座談会を設定しました。したがってテーマは「文化協会の現状と展望」といたします。それではお願いします。

**貢** 現状としましては、「会員数が減少傾向」にあり、これをどうとらえるかが問題です。

専門部会の発表会が充実していることは良いことかと思いますが、観に来られるお客様が少ないことが課題です。部会によっては多いところもありますが、お互い部会同士が協力して発表するコラボレーション方式も一考かと思えます。

「総合文化フェスティバル」については、展示関係や舞台関係が“総合的”に出来ることから「文化会館」の方が宜しいのではないのでしょうか。

いずれにしても大きな課題は「少子高齢化」につきるのではないのでしょうか。

**栗原** 文化協会も部会編成の見直しやHPの作成をしたことで、かなりきちんとしたのではないかと思います。

発表会などを観ますと、文化協会の歴史が長いんだなと実感します。プロレベルの作品が多く、日々精進されているのだと感じます。

もう少し総合文化フェスティバルに来てもらいたいと思います。絵画と短歌、写真と書道を組み合わせるなどのコラボレーションをしていけばどうでしょうか。作品自体は高度化していて、観た人は満足かも知れませんが、足を運んでもらうために見た目の工夫が必要かと思えます。少子高齢化がやはり問題です。ダンス・カラオケなどは増えていますが、古来の日本文化、書道や短歌・俳句の部会などが、少し元気がないのではないかと思います。会員を増やす工夫が必要だと思います。

**小出** みまき絵画会に所属しています。私が住んでいる所は、北御牧でも新興住宅地で他県から来た人が多く、新しい交流の地域です。絵画関係で感じていることは、絵画展に出すだけじゃなくて、観に来ていただくということが大事だと思います。

グループによっては指導者が高齢化して自然消滅しそうな状況ですから、会員の募集など厳しいです。展示会には作品がいつでも出せるように準備はしています。1回の教室に集まる人は10人足らずですが、中に90歳の方がいて一生懸命来てくれ、生きがいを求めて参加されているのかなと思います。以前は小学校高学年の女の子がいました。現在は社会人になってしまい



ましたが、年齢差のある中で活動していくことが、ひとつのコミュニケーションの場として成り立つと思います。

だから中央公民館や高齢者センターで展示会をする時は、「観に来て下さい。」と友人などを誘うことが大切だと思います。

**庄村** 私は合唱部会です。4月時点での会員数は9グループ160名くらいです。

毎年合唱祭を開いておりまして、15団体くらいの発表がありますが、やはり観客が少ないのが問題です。グループ内の高齢化も問題で、若い人は勤めていると練習に来にくいのが現状です。6月3日にオペレッタメリーウイドウをやりました。イベントをやる時に、合唱部会員が中心となりますが、一般の人も募集します。そうすると、初めての人が来ますが、その後にそのまま合唱をやってみたいということになり、新たに会員を増やす手段となるのではないかと思います。

今後の展望について、文化会館がNPOの管理になりました。大きな事業には予算が必要ですが、こちら側が予算がこれくらいでやらせていただけないか、というかたちになり2年前くらいから準備しなくてはなりません。市から補助は出ません。イベントはやり易いのかなとは、思います。

**塩野入** 8年間俳句部会長をやってきましたが、後継者が見つからずやってきました。8年間の間に感じたことは、文化フェスティバル、短詩型文学祭などを通して、東御市の文化協会はH16年に発足しましたが、北御牧の方と合併したことは、いろんな形でとらえられていると思います。第〇回というのがそれぞれの部会で異なっていて、共通理解がないように感じます。短詩型の実行委員もやって思いましたが、北御牧の人も皆で一緒にやっていく必要があると思います。このような配慮を今後どうしていくかということが課題でしょう。

もう一つ各部会は少子高齢化に悩んでいると思いますが、学社連携も一つの方法だと思います。今後部会などでその方策を考えてみてはどうでしょうか。

**青木** 指導者も会員も高齢化し、人数が減ってきているのが現状で、今後の課題であります。改善の方策も簡単ではありません。

文化フェスティバルについては、昨年初めて文化会館でステージ発表と展示発表を同時にやりましたが、駐車場の問題も含めて、比較的参加しやすかったのではないかと思います。猿まわしなどもあり、そこにお客さんが集中していましたが、比較的大勢の皆さんが来てくれました。しかしステージ発表の観客が少なく、来年どうしようかと思ったところもあるようです。皆さんせっかく参加しているのですから、自分のステージ発表だけに来て帰るのではなく、他のステージも観ていただいたり、展示の方も観ていただいたりと、お互いの発表や作品を観て欲しいと思います。

一番の課題はやはり、少子高齢化の影響と若い人たちをお誘いすることかなと思います。HPもアクセスは結構あるようですから、少しは役立っているのではと思います。

**司会** 東御市の文化協会は非常に活動が活発だと思います。この6月のメリーウイドウにしても、本格的オペラは昭和40年の上田で公演された「カルメン」以来ではないかと思います。活発な活動をこれからも続けていって欲しいし、そのためには部会を乗り越えて活動して欲しいと思います。異部門間の協働がこれからは、一番必要なことかと思っています。

各部会で子どもを含めた発表などもあればいいと思います。それでは後半、対応や展望にウエイトを置いてお願いします

**貫** グループの運営についてはそれぞれご苦勞を頂いておられることと思いますが、解決策の一つとして「HPの有効活用」により、従来からのグループや新しいグループを問わず、グループ内のPRを積極的にしていく方策もあろうかと思っています。

展望としては、如何にして大勢の「お客様」において頂いて楽しんで頂けるか！でしょうか（催事の趣旨にもよりますが）。まずはPR手段にしてもHPを始め多義に亘っていますが、必



要なことは「魅力」有る企画をすることでしょうか。そのためにも“コラボ方式”の導入が一つの方向かもしれませんね。

大切なことは、主催者や“関係者（出演者・作者等）の皆様”が直接お客様にどれだけのアピールが出来るか、ではないでしょうか。

市の各会場の使用については使用料の「減免制度」が有り、当協会のグループ活動について大変助かっております。

これは、その活動された結果として広く市民の皆様様に“観て頂く”・“聞いて頂く”等々により還元（地域還元）していくことが、私たちに課せられた必須課題ではないでしょうか。この関係については「新入グループ」宛には説明を実施しています。

**栗原** 広報の仕方について、HP もいいですが、実際に見ることが出来る人は、どのくらいいるのでしょうか。FM とうみで対談形式などで放送してみてもはどうでしょうか。

指導者も高齢になられて、受講生も高齢化しているのが現実です。私は書道の会ですが、先生が高齢になっておやめになって以来、みんなが先生でやっています。目標をもってやっけていきましたよということ、段位を取ることを目的にしています。あきらめそうなきも、みんなで頑張りましょうと声をかけ合いました。結果、目標まではいきましたが、それで満足してしまった部分もあります。それでもみんなで目標をもってやっけていくことはいいと思います。他のグループでもできるところは、やってみて下さい。

**司会** 北御牧の船山先生が亡くなられてから油絵の講座は、どうされていますか。

**小出** 4年間の闘病生活の後、亡くなられました。後継者はいませんが、先生の親友がそばに2人おられますので、ときどき見に来ていただいています。それぞれの技術をお持ちで、生徒も安心して来ている状況です。小人数でやっけていくのがいいのかなとも思います。展示会についてはすべてのミニコミ誌にもお願いし、ハガキも送っています。

**青木** 庄村さんにお聞きしますが、とうみ混声やTNSの発表は満席になっていますが、PRの仕方や力の入れ方はどうでしょう。

**庄村** TNSは無料でやっけていて、すごいなと思います。とうみ混声はチケットにノルマがあって、会員ががんばります。有料の方が集まるっていう場合もあります。個人的に言われると、来てくれるっていう場合もありますね。

**貢** 色々有るかと思いますが、1グループの場合は「責任の所在が明確」であり「内容も自由につくれる」ことではないでしょうか？

**庄村** 部会だとお金を取られませんが、とうみ混声だと30万円ぐらいかかります。事前練習や照明代も含めて。なのでやらないグループもあるようです。何とかならないものですかね。

**貢** 文化会館のステージ使用料ですが、「部会発表会」については全ての使用（照明・音響・空調等）が100%減免となり、利用サイドとしては有難い制度となっていますが、一方グループ単位の場合は、会場費は80%減免なれど照明やマイク・舞台装置及び空調等については減免無しとなっています。コラボ方式については如何でしょうか。今後、改定を望んでいます。

**司会** 同じようなことをやっけている部会であればよいのですが、我々の文芸創作部会のように、バラバラなことをやっけているところは難しそうですね。どのようにして動かしていくか、頭を悩ましています。何かまとまったことをやっけていく必要性は感じています。

**貢** 今後、改修される中央公民館も期待出来ると思いますし、新しくできる「講議室」の利用についても選択肢が増えることと思います。

**庄村** フェスティバルなどで観に行けなかった人もいると思うから、公民館に掲示してみてもど

うですかね。

**塩野入** 俳句は常設で展示しています。

**司会** 絵画、書道、写真、ちぎり絵等の展示は高齢者センターや湯楽里館など、他の場所でも、いろいろ工夫しながら展示されているようです。

それでは会員を増やすことに関して、公民館の生涯学習講座とのつながりに話題を変えていきたいと思いますが。

**貢** 「生涯学習講座」は基本的に1年で卒業されるもの…、と聞いて来ましたが、最近ではこの原則が薄らいできている感もありますね。「講座」を終了されたら直ちに当協会の既存グループに入るか、新規グループを創る等をして早く講座から手離れをして、自立の道（文化協会での活動）を進まれることをお願いしたい。当協会では大歓迎でお待ちしています。

**塩野入** 少し話がそれますが短詩型で北御牧からの俳句の応募があまりありません。地区館と協会との結びつきがない中で、グループとして会費を納めてもらったりして、つながりが持てるようにはできないか。学校とのつながりも課題です。短詩型であれば部会の人子どもたちのクラブなどに参加し、一緒に俳句を作ってみたりすることができると思います。

**貢** 北御牧方面で「俳句」をやっている皆様は実際にはおられるでしょうね？

**小山** 文化協会に入っているかどうか分かりませんが、俳句をやっている人はいます。妻は唱歌童謡教室でいろんな地区と交流を持っているようですが、協会に入っているかどうか分かりません。

**司会** 生涯学習講座では、生きがい講座で他地区

に行っている人もいます。文化協会の事業計画にも生涯学習講座の開講が入っているので、積極的にPRして欲しいところですが、先生となった会員が、生徒さんを協会に入れて欲しいと思います。

**貢** 確かに「当協会」から「生涯学習講座」に対し、講師を多数派遣しております。その目的の一つとして卒業された生徒様を一人でも多く「当協会」にお誘いをして、一緒に学んで行くことではないでしょうか。又、「生涯学習講座」では“新しいメニューの講座”も開設して頂いて、新たな入会の門戸を開いて頂き、どんどん修了生を当協会に送り込んで頂くこともお願いしたいところですね。

**司会** 文化協会はもっと広報に力を入れて欲しい。市報とうみの方に文化協会の枠を取っていただけないのでしょうか。

**青木** 「あゆみ」に載せられなかったグループ名を、本年度の「せせらぎ」に入れる予定です。グループ長名や電話番号までは入りませんが、「せせらぎ」は全戸配布なので宣伝にはなると思います。文化協会に入会するにはどうするか、加入に関する記事も入れる予定です。

**司会** お話はずきないわけですが予定の時間が参りました。文化協会これからの展望について、いろいろとご意見をいただきました。文化協会が継続していくためには、あらゆる世代の人が文化協会にかかわっていく必要があります。若い人、学生などです。

本日は誠にありがとうございました。

